



## 水野さんに対するパワハラの実態 その⑧

# ついに出向が言い渡される

## 訓告と出向の二重処分で絶望的な心境に…

平成28年7月19日の面談で、池田総務科長がはじめて清掃会社（SMT）への出向の話をしてきました。水野さんは今まで、会社管理者に言われた通りに書類を作成し、使いたくもない年休を使って休まされたにも関わらず、さらに出向に追いやられ、もう車掌業務には復帰できないとわかり絶望的な気持ちになりました。

また、水野さんは平成25年7月、非現業から現業（乗務員）に戻るときの「復帰者教育（3年以上）」で、一緒に受講した『懲罰出向』から戻ってきたある人より、「本当は出向した人はもっといた。ここまで残ったのは歯を食いしばってきた数人だ。出向先でやられて辞めていった」という話を聞きました。そのため、「自分も出向に行ったら辞めさせられるかもしれない、この会社で生き残ることはできないかもしれない」と、強い不安に襲われました。

そして平成28年7月20日、赤地所長から『訓告処分と清掃会社（大井日勤事業所）への出向』が言い渡されました。水野さんは、何故処分と出向が同時に出されるのかわからず、**出向も合わせ技で、「事実上の懲戒処分だ」と**感じました。今まで従事したことのない仕事への不安と、もう車掌業務には戻れないという絶望感で、水野さんはそれ以降の記憶はほとんどないそうです。

心配した水野さんのお父さんが職場まで迎えに来ましたが、帰路の道中で水野さんが、「もう死にたい。もう辞めたい」と言っていたことを裁判で明らかにしました。

